

Sustainable Report No.127

アルミ回収から 資源利用を考える

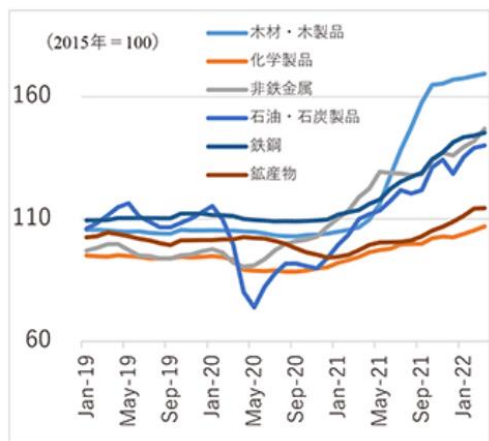


サステナブルレポートとは、サステナビリティを指標に社会課題や環境課題からテーマを選定し、それらの背景・ソリューション事例・将来への展望などを考察する独自の調査報告書です。
小川電機グループは、全従業員ひとりひとりが本レポートを作成・発信する取組みを行っています。

■ 課題の現状／経緯／影響

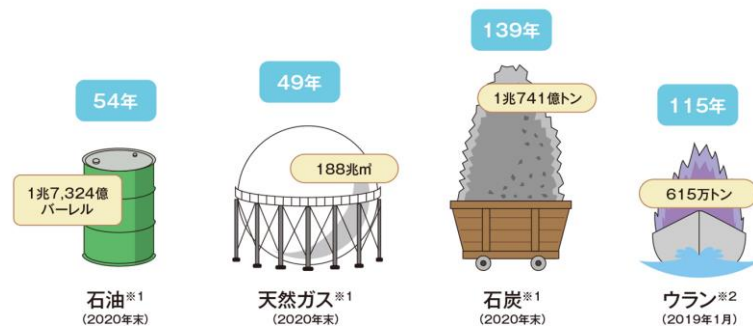
- ロシアによるウクライナ侵攻によって、世界では有限な**石油資源の価格が高騰**している。
- 都市部の増加は産業発展にともなう**資源の取り合い**がを引き起こし、世界の石油確認埋蔵量は2020年末時点で**可採年数は53.5年**といわれる。（[経済産業省 資源エネルギー庁](#)）
- 資源枯渇は日本の**事業や暮らしを圧迫**している。石油・石炭製品は2015年比で2022年までに4割上昇したが、平均収入は2000年比で2018年に1割減。**自給率の低さ**が問題視されている。（[厚生労働省](#)）

■ 素材分野の企業物価指数の推移



出典：資源エネルギー庁

■ 世界のエネルギー資源確認埋蔵量



(注) 可採年数=確認可採埋蔵量/年間生産量
ウランの確認可採埋蔵量は費用130ドル/kgU未満

出典：(※1) BP統計2021、(※2) OECD/NEA/JAEA (Uranium 2020) より作成

出典：BP統計2021、URANIUM2020をもとにエネ百科が作成

▶ NEXT : アルミ缶の回収とリサイクル98%

■ 実行者／解決方法／残る課題

- 大正6年創立の**東洋製罐グループホールディングス株式会社**（東京都品川区）は、包装容器の製造業を展開。『未来をつつむ』を掲げ、持続可能な経済成長、や社会的課題の解決を目指す。
- **世界初のリサイクルアルミ100%使用飲料缶**を開発。使用済アルミ缶や、アルミ缶製造過程で発生したスクラップ等を配合し、1缶当たりのCO2排出量を通常品より60%削減する。
- 2022年度に国内のアルミ缶のリサイクル率は97.5%、**缶から缶は73.8%**にのびったが（[アルミ缶リサイクル協会](#)）、他素材のPETはボトルからボトルは29%に留まる（[全国清涼飲料連合会](#)）。

■ 「ザ・プレミアム・モルツ CO2削減缶」



出典：東洋製罐グループホールディングス株式会社

■ 「経済産業省産業技術環境局長賞」を受賞



出典：2023日本パッケージングコンテスト

▶NEXT：他素材でも水平リサイクルを拡大するためには

■ 弊害の原因／理想／企業施策

- 新品原料の調達や廃棄処分が安価な為、**再生処理のコスト負担**を懸念する事業者が多いのではないかと。また、それら転嫁した商品価格で売上を向上するほど価値の認知に至っていないのではないかと。
- リサイクルを促すには、環境配慮を行った方が**長期視点でコストパフォーマンスが良い**ことが当たり前前に知られ、短期視点の超低価格商品は淘汰される将来が訪れるかもしれない。
- 昔の瓶のように、企業は**自社製品の「回収」に注力**すべきであり、数を束ねる拠点が増えるとよい。

■ 参考：セブンイレブン／ペットボトルの循環型リサイクルでnanacoポイント還元



出典：株式会社セブン-イレブン・ジャパン



本レポートをご覧いただき、ありがとうございました

■ 参照・引用資料

- 資源エネルギー庁, 「第3節 世界的なエネルギー価格の高騰が日本に与える影響」 (令和3年度エネルギーに関する年次報告) ,2023年9月21日参照 (<https://www.enecho.meti.go.jp/about/whitepaper/2022/html/1-3-3.html>)
- 一般財団法人日本原子力文化財団, 「エネ百科」内「【1-1-06】世界のエネルギー資源確認埋蔵量」,2021年11月15日 (<https://www.ene100.jp/zumen/1-1-6>)
- 東洋製罐グループホールディングス株式会社, 「世界初のリサイクルアルミ100%使用飲料缶が「日本パッケージングコンテスト」において最高賞である「ジャパンスター賞」を受賞」,2023年8月31日 (<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000065.000049660.html>)
- 株式会社セブン-イレブン・ジャパン, 「ペットボトルの循環型リサイクル」,2023年9月21日参照 (<https://www.sej.co.jp/csr/recycling.html>)

■ サステナブルレポートに関するお問い合わせ先



小川電機株式会社

〒545-0021 大阪府大阪市阿倍野区阪南町2丁目2番4号

tel:06-6621-0031(代)

- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的著作権は株式会社小川電機に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。